

第8回伊那地域定住自立圏共生ビジョン協議会 会議録

開催日	平成31年2月6日(水)			
開催時間	開 会	午前10時	閉 会	午前11時30分
開催場所	市役所 501・502会議室			
委員出席者	伊那市区長会 伊那中央行政組合 伊那市社会福祉協議会 伊那商工会議所 箕輪町商工会 上伊那農業協同組合 上伊那森林組合 伊那バス株式会社 ジェイアールバス関東株式会社 中央道支店 有限会社 白川タクシー 長野県宅地建物取引業協会 南信支部 伊那市観光協会 NPO 法人子ども・若者サポートはみんぐ 信州大学 公募	唐澤 規夫 宮原 文彰 矢澤 秀樹 小林 旬子 向山 淳 山岸 哲夫 原 武志 福澤 信義 宮本 昭一 白川 光朗 大村 裕一 中村 忠人 戸枝 智子 鈴木 純 杉山 祐樹		
欠席者	箕輪町区長会 南箕輪村区長会 南箕輪村商工会 伊那市保育園保護者会 上伊那 PTA 連合会	青木 俊夫 三澤 稔 中川 博夫 埋橋 辰典 赤羽 隆行		
委員以外の出席者	上伊那地域振興局企画振興課長	山邊 英夫		
出席した事務局職員	伊那市企画部長 伊那市企画部地域創造課長 南箕輪村地域づくり推進課長 伊那市企画部企画政策課長 伊那市保健福祉部子育て支援課長 伊那市総務部総務課長 伊那市企画部地域創造課課長補佐 伊那市企画部地域創造課人口増推進係長 伊那市企画部企画政策課企画政策・リニア推進係長 南箕輪村地域づくり推進課企画係長	飯島 智 下平 明彦 田中 俊彦 重盛 巧 網野 喜彦 飯島 伸一 小川 貴 田中 久 福澤 誠 山口 弘一郎		
議 事	(1) 平成30年度取組状況について (2) 共生ビジョンの改訂(案)について			

配布資料	資料 1	伊那地域定住自立圏平成 30 年度取組状況について
	資料 2	伊那地域定住自立圏共生ビジョンの改訂（案）について

1 開 会

2 あいさつ

(1) 市長あいさつ

本日は、伊那地域定住自立圏共生ビジョン協議会にご出席いただき、感謝申し上げます。伊那地域定住自立圏については、経済や生活の結びつきが強い近隣自治体間との連携を深めながら、将来にわたって安心して暮らせる魅力的な地域づくりに取り組むため、平成 28 年に形成に関する協定を締結し、圏域の将来像や推進する具体的な取組を定めた共生ビジョンを策定した。

3 年目となる今年度は、空き家バンクの物件登録や利用促進に向けた、見学ツアーや登録相談会の開催、さらに子育て関連では、ファミリーサポートセンター会員の養成講座、子育て支援センターの情報発信において、新たに 3 市町村で共同実施するなど、共生ビジョンに基づき相互連携と協力体制が進んでいる。

また、伊那本線と市街地循環バス内回り便の路線バスの運行については、当初は利用が低調であったが、昨年度と比べると、総利用者数、1 便当たりの利用者数とも、増加傾向となっており、路線バスとして定着してきている。

本日は、今年度の取組状況の確認と併せて、K P I の修正など、共生ビジョンの改訂について協議いただく予定ですので、活発な議論をお願いしたい。

委員の皆様には、お忙しい中とは存じますが、今後とも格別の御理解と御協力をお願いしたい。

(2) 会長あいさつ

今年度 2 回目の開催となるが、前回は昨年 6 月 26 日に開催し、共生ビジョンの具体的な取組事項に係る昨年度の実績や成果指標などの進捗状況をご確認いただいた。

本日は今年度の取組状況と共生ビジョンの改訂についての協議を予定している。3 市町村の住民の皆さんが住み良い、魅力ある地域となるよう本協議会で議論をお願いしたい。

3 会議事項（進行：唐澤会長）

(1) 平成 30 年度取組状況について

会 長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： （資料 1 により説明）

会 長： 説明内容について、御意見、御質問等はあるか。

委 員： 地域公共交通について、全国的に高齢者の運転免許返納が進められているが、高齢者を含めた交通弱者の方に利用してもらうためのメリットや工夫されていることはあるか。

事務局： 伊那市、南箕輪村においては、運転免許返納者が伊那本線、市街地循環バスの内回り便を利用する場合は、運賃を半額としている。

委 員： 利用者数は増加傾向にあるものの、1 便当たりの利用者数は 5 人に留まっているため、今後もより多くの方が利用してもらうように、制度設計の工夫をしていただきたい。また、利用が増えない学生に対しても、難しい面もあると思うが、知恵を出して工夫をしてもらいたい。

事務局： 地域の方が利用しやすい地域公共交通を目指して、様々事業を展開してまいりたい。

委 員： 市街地循環バスの内回り便については、利用者が増加傾向にあるが、その要因が外回

り便から利用者が移行しているだけでは、あまり意味がないのではないかと。

事務局： 市街地循環バスは1周40分かかるため、内回り便を運行することにより便数が増え、利便性が向上し、昨年度の利用実績においては、外回り便の利用者は減少したものの、内回り便と合わせた全体の利用者は前年度と比べて増加している。

委員： 利用者は増加しているが、その分経費もかかっていることから、内回り便だけでなく、全体の利用実績の資料を提示していただき、将来の運行について協議・検討していくべき。

委員： 高齢者等の移動手段を確保するため、地域によっては住民による助け合い移送を実施しているが、今後、中山間地域においても地域公共交通の運行を検討していただきたい。

委員： 空き家バンクホームページをスマホにも対応できるように改修し、若年層を中心に検索数も増加してきている。しかし、登録物件の老朽化、中山間地域に登録物件が偏っているなどの課題もあることから、今後とも周知に努め、伊那不動産組合として、引き続き空き家バンク制度を通じて移住促進の一翼を担っていきたい。

委員： 空き家バンク等を通じて、移住されてきた方の年齢構成は。

事務局： 伊那市の場合は、昨年度、市外からの移住者108人のうち、20代30代が5割以上を占めている。

委員： 子育て世代にとって、現代は子育てしにくく、孤立しやすいことから子育ての拠点づくりを充実させていくことは重要である。今年度、上伊那地域子ども応援プラットフォームとして、子ども食堂のネットワークづくりと人材育成を目的に活動している。子ども食堂で親子と一緒に食事をするすることで、母親のストレスも解消されることから、こういった事例も含めて子育て世代に限らず、輪を広げながら引き続き取組を充実させてもらいたい。

委員： 移住者に子育て世代が多いことから、地域とのつながりがなく孤立しないように、空き家バンクの相談会や見学ツアーの際に、子育て相談も一緒に行うなど、移住してきた方の暮らしの定着という視点も入れて、取り組んでもらいたい。

事務局： これまでの取組を検証した上で、今回のご意見も踏まえて検討していく。

委員： 移住定住に向けて、市町村ごとに施策をPRすると同時に、子育て施策などは3市町村合同で実施しているなど、子育てしやすい地域であることをPRしていくことも重要である。

(2) 共生ビジョンの改訂(案)について

会長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： (資料2により説明)

会長： 説明内容について、御意見、御質問等はあるか。

特に意見なし

(3) その他

委員： 行政区域縦断路線バスは伊那方面と箕輪方面のどちらの利用が多いのか。

事務局： ほぼ均衡した利用状況となっている。

委員： 行政区域縦断路線バスの試験運行における将来的な圏域の移動目的をどのように考えているのか。

事務局： 行政組合で運営している伊那中央病院や圏域内の商業施設の利用が活発となり、さらに地域住民の交流が図られることを目的としている。

委員： 利用促進に向けて、圏域内の移動目的の精査、検証が必要である。

アドバイザー： 共生ビジョンのK P Iの見直しについては、今後はこの目標の達成に向けて、適切に取り組んでもらいたい。

また、移住定住の促進に向けては、若者の価値観の多様化により、それぞれのニーズに沿った対応と併せて、定住後のフォローの態勢を整えることも重要である。

地域公共交通については、県では来年度、地域公共交通ネットワークの再構築を目的に、市町村を跨るバス路線のデータを基に、今後のあり方をカルテとして策定する事業を予定しているため、県も一緒になって取り組んでいく。

4 その他

特になし

5 閉 会